

## 《スリランカ訪問の経緯と目的》

弊社会長の西川が 2023 年の 2 月 4～9 日にかけてスリランカを訪問した。2022 年 9 月に東京でスリランカのマヌーシャ労働・海外雇用大臣の懇談会開催をお手伝いした際、大臣からスリランカ訪問を強く要請され、その要請を受けての訪問である。弊社としては外国人材の調達先の多様化は必要と考えており、今回のスリランカ訪問はそのための情報収集と人間関係構築を主な目的としてスリランカでの会合に臨んだ。

## 《マヌーシャ労働・海外雇用大臣との会談》

マヌーシャ労働・海外雇用大臣との会談は 2 月 5 日にマヌーシャ大臣の執務室で行われた。大臣は引き続き海外の雇用機会獲得に熱意をもって取り組んでいるとのことであり、中でも日本を送り出し先として重視していることを改めて強調されていた。



大臣執務室でマヌーシャ大臣の歓迎を受ける

送り出しに必要な教育を政府が無償で実施することにより、人材の競争力を高め、労働者の出国前の負担軽減を進めているとのことである。より即戦力に近い人材を、借金などのトラブルの発生リスクが低い状態で供給できる体制が構築されつつあるわけであり、中長期的な外国人労働者の雇用戦略を考えるうえでも目の離せない政策対応だ。今後の動向に注目すべきだろう。

マヌーシャ大臣は 2023 年 4 月に日本を訪問される予定とのことであり、その際に再会することを約束してくださった。弊社（アセアン・フィナンシャル・ホールディングス）としては、コミュニケーションを継続的しながら、彼の政策に協力し、その進捗をより近くで見守り、関係各位への情報提供を継続して参りたいと考えている。

## 《理想と現実》

スリランカは既に労働力の輸出大国であり、サウジアラビアなどの中東諸国やインドに多くの労働者を供給している。マヌーシャ大臣は労働力の輸出量を今後一段と増やすと同時に、その輸出先を「日本」を中心とした先進国に変えようとしている。スリランカの労働者を、より技術習得の機会に恵まれた、学習しながら稼げる環境に送り出すことを理想としているということだ。

理想を実現するためには教育が不可欠である。マヌーシャ大臣は政府による無償の教育を進めているが、日本への渡航希望者が予想以上に多く、財政にも限界があり、政府だけでは十分に対応できていないのが現実となっている。また、日本からの引き合いも予想を上回

っているようで、介護や医療機関向けの人材を月数百人単位で求められるケースもあるようだ。この結果、スリランカの送り出し機関の中には政府の動きを待つことができず、有償で教育を行い、人材を送り出すケースが増えており、日本への渡航を急ぐ人にはその費用を自身で負担しているケースもでてきているとのことだ。負担額は日本円で 1 万円程度と低水準だが、更に日本へ行くことを希望する若者が増えれば需要超過によって負担額が増加する可能性もある。すべてが理想通りに進んでいるわけではないというのが現実のようだ。

大臣の言葉の端々に期待と不安の交錯が窺える。日本語の第 2 外国語化等により、日本での労働を希望する人が増え、政策は正しい方向に動いている。その一方、全体からみれば日本への人材派遣はまだまだ僅少であるにもかかわらず政策実務は政府のキャパシティを超えてしまっている。このギャップをどのように修正していくのか、いつも前向きなマヌーシャ大臣の手腕に期待したい。

## 《大統領との面談は次回》

西川は 2 月 8 日にスリランカの統一国民党のパリサ・レンジ・バンダラ書記長と会談し、スリランカの国情について意見交換した。債務再編交渉が進まないため、スリランカ経済の再建が動き出せずにいること、IMF（国際通貨基金）主導の経済再建が始まった後の痛みを伴う改革に政治がどう向き合うのかといったことを心配されていた。

バンダラ書記長は 2000 年に統一国民党から出馬して初当選、2015 年には電力・エネルギー相を務めた実力政治家だ。会談後に統一国民党の党首でもあるスリランカ大統領のウィクラマシンハ氏との面談を依頼した。バンダラ幹事長は快諾し、奔走して下さったが、残念ながら都合がつかず会談は実現しなかった。書記長は「次回は必ず」と力強く約束して下さった。

統一国民党は 1948 年の独立以降、スリランカ国政史で重要な役割を担ってきたが、2020 年の総選挙前に分裂し、1 議席の獲得にとどまる大敗を喫した（前回までの保有議席数は全 225 議席中 106 議席）。その後、2022 年 3 月に経済危機が表面化して抗議活動が先鋭化すると、中国との経済関係拡大を主導してきたマヒンダ・ラージャパクサ首相が辞任、長年の政治経験を買われて野党勢力を代表すかたちでウィクラマシンハ氏が首相に就任した。さらにゴタバヤ・ラジャパクサ大統領（マヒンダ・ラージャパクサの弟）が国外逃亡したことにより、ウィクラマシンハ氏は 2022 年 7 月に国会の指名によって大統領に就任し、危機対応政権を率いている。



統一国民党のパリサ レンジ バンダラ幹事長と  
後ろの写真はウィクラマシンハ大統領

バンダラ書記長は統一国民党の勢力後退後の困難な状況下で、いわば「火中の栗」を拾う形で 2021 年 3 月に書記長の職務を引き受けている。2022 年 3 月以降の混乱のなかで、党の実務トップとして他の政党と交渉し、政権運営を軌道に乗せてきた手腕の持ち主である。警察の現場 OB とのことであり、実直さ、高潔さ、強い意志の力をお持ちであると感じられた。スリランカでの良き相談相手になっていただけないのではないかと期待しているところだ。

## 《スリランカの治安》

西川は 2 月 5 日に水越駐スリランカ大使と会談した。スリランカの治安に不安を感じることはなく、現地の人々の外国人に対する接し方にストレスを感じることもなかったが、水越大使によれば、経済危機による混乱状況からは抜け出し、治安は安定しているが、経済の見通しについては不透明感をぬぐえない状況が続いているとのことであった。

スリランカ国民の日本に対する感情は良好だそうである。スリランカの国情に合わせたきめ細かな経済支援や文化的な交流を通して培ったものであり、短期的な経済変動に影響を受けないと考えられる。外務省も引き続き経済については協力の姿勢を示しながら、関係発展に注力しているようである。

## 《ペラヘラ祭り》

滞在中、毎年 2 月の満月の日に開催されるコロンボのペラヘラ祭が開催されており、見学する機会を得た。ペラヘラ祭はスリランカ最後の王朝の都であった世界遺産都市 Kandy (キャンディー) の仏歯寺にある「仏陀の歯」を祭るもので、毎年 8 月の満月の日にキャンディーで開催され、アジア三大祭に数えられている。紀元 4 世紀ごろから続くといわれる長い歴史のある祭りだが、コロンボのそれは 1979 年に何人かのスリランカ伝統芸能アーティストによって始め



電飾された象さんに仏歯を乗せて寺院の前にある湖を一周する。大勢の若者による舞踏のパフォーマンスがそれに続き、大行列で練り歩く

られたガンガラマ寺院のペラヘラ祭が大規模化し、国家的な行事になったそうである。指導層から一般市民まで、多くの老若男女が、政治や宗教の対立を超えて参加するそうである。祭りを楽しむ大勢の市民の姿からは、厳しい経済状況を克服するに足るエネルギーを感じることができたし、治安の現状が安定していることを確認できた

## 《スリランカへのアクセス情報》

東京（成田）からスリランカ（コロンボ）への航空便は週3便（火・木・土）、スリランカ航空の直行便が運航している。スケジュールは往路が出発午前11時、到着午後6時（時差は-3時間半）、往路が出発午後8時、到着翌日の午前7時半となっている。飛行時間は10時間程度である。

現地の道路は整備されており、空港からコロンボ中心部までは約35キロメートル、1時間弱で到着できる。しかし、朝夕の通勤時間帯の渋滞に巻き込まれると2倍の時間がかかるそうだ。また、丘陵地帯では道路に象や牛が現れ、予期せぬ渋滞を引き起こすことがあるそうである。

\*\*\*\*\*

## 《是非、スリランカ訪問のご報告をさせていただきたいと考えております》

我々は協同組合「善美」(<https://www.zenbicoop.com>)を通して、既に10以上の国々（インド、バングラデシュ、スリランカ、ネパール、ミャンマー、インドネシア、カンボジア、ラオス、ベトナム、モンゴル、タイ、フィリピン、中国など）で、22の送り出し機関と提携し、多様な人材の供給のお手伝いしております。

今回のスリランカ訪問は実りあるものでした。上記の報告にまとめられなかった情報もごさいます。お取引の有無にかかわらず、一度お時間を頂戴してご面談を賜り、スリランカ訪問に関するご報告をさせていただければ幸いに存じます。中長期の人材戦略にお役に立ていただければと考えておりますので、ご検討のほどよろしくお願い申し上げます。